

TYPE OF INDUSTRY

モノとモノが互いにつながり、新たな価値を創るIoT（モノのインターネット）の分野をはじめとし、ICT分野の研究開発から社会実装までの迅速化が求められている。

情報通信研究機構（NICT）総合テストベッド研究開発推進センターは、実際に研

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

⑨0

究や試作段階のモノ・ン基盤テストベッド7年度には、アジア初伝送実証実験を行ったサービスを検証できる（StarBED）などとなる東京、香港、シドニー、高橋の8K映像を用いて、日本とシンガポール間の100倍の回線による国際実証して複数方式のLPW

場である「テストベッド」をNICTが提供する複数のテストベッドを統合した「NICT総合テストベッド」を構築し、環太平洋圏を構築し、産学官連携を進めることにより、IoT、AI、ビッグデータの活用が期待されている。複数のテストベッドを自由に組み合わせたオープンイノベーションを創出する環境の構築も目指している。

我々は、超高速研究開発ネットワークを構築し、国際的には、2019年高速のファイバーネットワークを構築し、世界最速のIoTのラストマイルをサポートする

## 検証環境提供 イノベ後押し

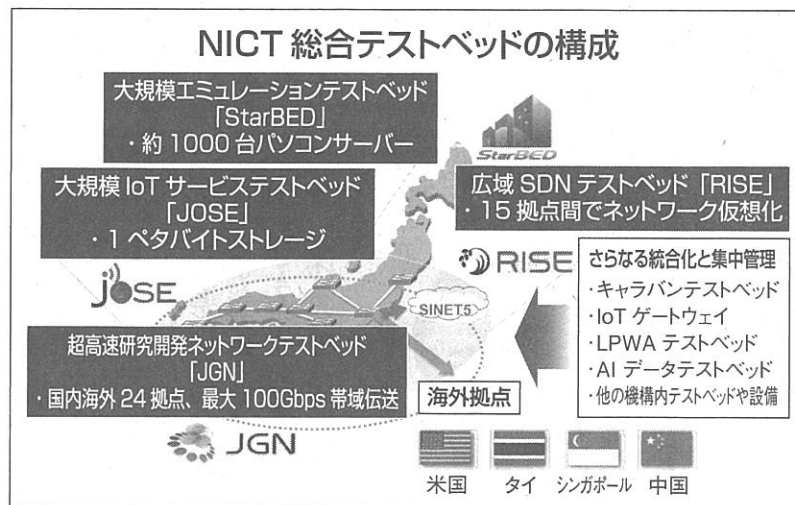
総合テストベッド研究開発推進センター！  
テストベッド連携企画室 室長 藤沼 広一

00年総務省入省。総務省の情報通信関係部局勤務及び在外研究、内閣府・文部科学省などへの勤務を経て現職。NICT総合テストベッドの将来像の検討や、利用促進を担当。



科学技術・大学

### NICT 総合テストベッドの構成



IoT向けのメニューを増やしているほか、手軽に使える環境を構築している。

今後に向けては「ソサエティ5.0」を支える次世代のオープンイノベーション環境を実現するため、多様な無線システムの周波数・通信方式などを大規模かつ高精度で模擬可能な電波エミュレーター（高精度な電波シミュレーター）の検討を行っている。

これらにより、従前からの産学の研究者はもとより、新たにIoTを使ってみたいと考えている方も含め、多くの利用者に使っていただき、日本からのイノベーション創出を後押ししていく。

（火曜日に掲載）